資料2－1

知床エコツーリズム戦略見直しの作業進捗と構成案

1. 戦略見直しに係る作業進捗と本日の議論ポイント、今後の予定

- 2025 年度のエコツーリズム WG、検討会議を通じて戦略見直しの方針、構成、主要な修正ポイントについて委員および構成団体から意見を聴取。
- 2026 年 6 月 11 日にこれまでの検討経緯を踏まえ、論点整理を目的としたグループヒアリングを実施（愛甲座長、松田委員、船木委員）。
- これらの結果を踏まえ、今回 WG では改定戦略の構成案（大項目レベル）の確定をゴールとする。また、追記・修正の必要な項目を中心に、盛り込むべき内容や修正点についてポイントを絞って意見交換を行いたい。
- 本日の議論結果を踏まえ、事務局では本文の起草を進めるとともに、各項目の内容に応じて第 1 回エコツーリズム検討会議（10 月予定）、第 2 回 WG/検討会議（2 月予定）で構成団体・委員の意見を聴取し、年度末に案をまとめる。
- また、個別項目の起草と編纂にあたっては、委員や関係者を対象としたグループヒアリングを適宜実施予定。

2. 見直しに関する主要な指摘と反映状況

2-1 戦略の名称・位置づけに関する事項

- 戦略という名称が使われているが、現在の内容はガイドラインや推進計画の要素も含まれる。名称と位置づけの確認が必要。
- 斜里・羅臼の両町の観光施策との整合性を図るため、エコツーリズム戦略の位置づけ、取り扱いの範囲（スコープ）を明確に規定すべき

主な対応

○　名称は「知床エコツーリズム戦略」を引き継ぐ

○　遺産管理計画の下位計画としての位置づけを明確化。関連計画との関係性についても整理（３章）。

- 現行の戦略は具体性に欠ける。大きな方向性を示す長期的な「戦略」と、誰がいつまでに何をするか、具体的な行動計画である「戦術（アクションプラン）」に分けるアプローチが必要。
- 戦略は 10 年単位で変わらない要素を、戦術（アクションプラン）は 5 年毎に検証・改定を行う形が望ましい。

主な対応

○　「戦略」としての位置づけを新規追加し（３章）ビジョン、目標、大方針などを中心とした構成に整理。

◯　今年度は戦略の改定に注力し、戦術（アクションプラン）は提案制度の活性化などと併せて次年度以降に取り扱いを協議。

2-2 全体の構成に関する事項

- 「目的」「方針」「方策」「原則」などの項目が離れていたり、入れ子になっており、全体の流れや論理的な一貫性が保たれていない。
- 関連する計画や統廃合する計画の重要な要素が盛り込まれていない。

主な対応

○　全体の構成を入れ替え、目的⇒課題⇒目標⇒方策⇒視点・配慮事項⇒実行体制とする構成に再整理。

◯　主要な既存計画の主要な要素を抽出し、現行の戦略との関係性を比較分析し、加除修正する分析を実施（資料 2-2）

2-3 目標設定・指標の設定に関する事項

- 10 年前から観光マーケットや社会情勢、自然環境も変化していることから、これに対応する修文が必要。
- 特に課題については、「問題（長期的)」「課題（短期的)」を書き分けた整理が必要。

主な対応

○　「現状と課題」の項目（５章）を設け、現状と課題を分析し記載。

◯　具体的な記載内容については主に WG 委員の助言を得ながら取りまとめ、検討会議で地域構成員の意見を聴取する。

- 戦略としては「長期的なビジョン」を示すべき。
- 戦略の目標の中に「達成状況の評価」に関する具体的な記載を検討すべき。
- 目標は可能な限り評価可能な数値目標が盛り込まれるべき。

主な対応

○　６章に「守り、伝えるべき知床の価値と将来目標」の項目を配置。

◯　IP 全体計画において整理された地域固有の価値を盛り込む（資料 2-3）

◯　利用の将来ビジョンとして地域発案の「ゾーニングとイメージ（案)」を整理し、空間的な管理と利用のイメージを示す。(資料 2-3)

◯　目的に紐づいた目標設定を行い、必要に応じて数値化可能な KGI を設定する。

◯　ビジョンについては検討会議で地域意見を聴取する。目標設定については、関連計画の設定状況など踏まえながら委員より助言を得る。

2-4リスクマネジメントに関する項目の追加

主な対応

- ○　リスクマネジメントの視点を「２章_目的」レベルに盛り込むことを検討
- ○　先行する「斜里町アクティビティリスク管理（斜里モデル)」等との整合を図りつつ、半島全体（羅臼側を含む）への展開可能性を規定
- ○　５章で現状と課題を記載の上、８章に必要な手法や視点を「リスクマネジメントの共通理解と実践」として記載。具体的には、安全対策理念、予防的管理、リスク情報の適時提供、現場判断の尊重、関係行政・事業者間の連携などを記載予定（資料 2-3)。

2-5戦略の実行体制・関係者の役割分担

- これまでの運用において提案制度が定着・継続できなかった背景には、予算や体制面に課題があったと考えられるため、まずはその原因を明らかにし、サポート体制を構築することが必要。
- 提案の範囲や事業者との関係性の規定が曖昧であるため、これを改めて検討し、行政が介入すべき「横断的な課題」は本 WG 等で議論し、個別のビジネスベースの方策は提案制度を通じて提示してもらうという形に整理すべき。
- 近年提案が減少している課題を解決するためには、戦略本体の改定と同時に「事務取扱要領」も見直さなければ実質的な問題解決には至らない。
- 提案を実践する地域住民や事業者にモニタリングの全負担を課すのは厳しいため、「どのような考え方でモニタリングを行うのか」という基本方針を戦略に明記すべき

主な対応

- ○　提案制度の運用を想定し、７章「必要な取組み」を提案の対象となる政策分野・事業領域として取り扱い、８章「必要な視点」を提案の審査基準として取り扱うことを想定。
- ○　提案制度の実行体制については、９章に盛り込むことを想定。また、詳細な手続き等のあり方は、事務取扱要領の中で取り扱うことを想定。
- ○　関係者の役割分担、関係性などは４章「戦略の対象」のなかで整理予定。

資料2－1(別紙)

エコツーリズム戦略の構成（案）

構成		概要・起草の方針
基本的事項	1．はじめに【継続・追記】 1-1 戦略策定と改定の背景 1-2 前期戦略の運用総括（レビュー）	● 戦略作成と改定の背景を記載。策定時からの自然環境の変化、観光の状況やマーケットの変化に即した修文を実施。また、遺産登録２０年や管理計画の改定なども背景として記載。 ● 1-2 で現行のエコツーリズム戦略運用の総括（成果と課題）を整理。今回改定に至る背景を新規追加。
	2．戦略の目的【継続・追記】	● 自然環境の保全、良質な自然体験の提供、持続可能な地域社会の構築の３点は継続して記載。 ● 観光船事故やヒグマ人身事故などを踏まえ、リスクマネジメントの視点を追加。
	3．戦略の位置づけ【新規追加】 3-1 世界遺遺産管理計画との関係性 3-2 その他関連する計画との関係性	● 戦略の基本的事項であることから前段部に新規追加。 ● 戦略の世界遺産管理計画との関係性を明記 ● そのほか関連する計画（国立公園、既存の関連計画、地域の観光計画等との関係性を整理 ● 詳細は付属資料に整理か。
	4．戦略の対象【継続・追記】 4-1 戦略の対象となる地域 4-2 戦略の対象となる活動と来訪者 4-3 戦略の策定主体と対象となる関係者	● 戦略の基本的事項であることから前段部に項目を移動。 ● 「戦略の策定主体と対象となる関係者」を追加
課題	5.知床の観光・エコツーリズムをめぐる現状と課題【全面改訂】 5-1 観光・エコツーリズムの現状と推移 5-2 現在生じている課題 5-3 今後予想される中長期的な問題	● 遺産登録以降の観光利用の量的・質的な変化を踏まえて改訂 ● 個別サイトの課題などはどこまで盛り込むか要検討。 ● 中長期課題は統計データ、長期モニタリングデータを活用
目標	6．守り伝えるべき知床の価値と将来目標【全面改訂】 6-1 守り伝えるべき知床の価値 6-2 目指すべき知床半島の利用のビジョン 6-3 ゾーンごとの価値と基本的な利用の方向性 6-4 具体的な目標項目と KGI	● IP 全体計画の成果を踏まえた知床の価値を整理とそれを伝えるためのストーリーの活用について記載 ● 「ゾーニングとイメージ案」などを踏まえ、ゾーニングによる空間計画、利用の方向性、リスク管理の考え方をゾーン毎に整理。 ● 既存の計画との統合、関連計画との整合性を踏まえた記載とする。 ● 「目的」からブレイクダウンした具体的な目標設定とこれらを図るための指標（KGI）を検討。
方策・方法・視点	7.将来目標を達成するために必要な取組み【再整理】 7-1 訪問者のマネジメントとルールの設定・運用、これらと一体的な施設整備 7-2 地域資源の活用と遺産価値を伝えるストーリーに基づいた高品質な観光プログラムの開発 7-3 ガイドの育成・研鑽とガイド利用の推奨 7-4 滞在型観光の推進・外国人観光客の戦略的な受け入れ 7-5 包括的な情報発信とブランディング 7-6 多様な主体の分担と担い手の育成・受け入れ体制の強化	● 目標に向けた方針を記載。現行戦略の「具体的な方策」の項目を再整理。 ● 個別の施策というよりも､「遺産地域のエコツーを推進する上で重点的に関係者が取り組むべき政策分野」を整理する。 ● 提案制度を念頭とした場合、「**提案の対象となる事業領域**」として扱う ● 関連計画の重用要素を反映。また、既存計画との整合性を確認。 ● 起草にあたっては、今後期待される取組み、先駆的な取組み、緒につきつつある取組みなどを例示するのも案。
	8.エコツーリズムを含む観光利用の推進に必要な視点【再整理】 8-1 地域主体・自律的・持続的であること 8-2 協働・連携・ネットーワーク 8-3 モニタリングに基づく順応的管理 8-4 リスクマネジメントの共通理解と実践 8-5 自然環境の保全と景観への配慮 8-6 地域の文化・歴史的背景を踏まえること 8-7 知床のブランド価値を高めるという視点 8-8 地域経済への貢献と利益の還元	● 方針、方策の展開にあたって、備えるべき視点（管理手法）と事業者、管理者、利用者にもとめる配慮事項（ガイドライン）を整理。 ● 現行戦略の「5.エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点」と「9.具体的方策」を再整理。 ● 関連計画の重用要素を反映。また、既存計画との整合性を確認。 ● 提案制度を念頭とした場合、「**提案の改善のための指針**」として扱う。
実行体制	9．戦略の実行体制【継続・追記】 9-1 検討会議と提案制度を活用した運用 9-2 アクションプラン（戦術）への展開方針 9-3 見直しの手法、期間	● エコツーリズム検討会議、WG の場の整理結果を反映 ● 提案制度の概要、あり方、運用指針について記載 ● （戦術）アクションプランの策定と連携の方針記載
	付属資料・関連データ	● 関連文書（事務取扱要領・付属資料）の位置づけ、扱い

エコツーリズム戦略の構成（新旧比較）

現行戦略		見直し（案） 202603720
1. はじめに	→	1．はじめに（計画の前提と位置づけ） 1-1 戦略策定と改定の背景 1-2 前期戦略の運用総括（レビュー）
2. 戦略の目的	→	2. 戦略の目的
3. 現状と課題 (1)観光やエコツーリズムの現状と経緯 (2)現在生じている課題 (3)今後予想される課題		
4. 既存の法律、制度、ルール	→ 付属資料へ	3．戦略の位置づけ 3-1 世界遺遺産管理計画との関係性 3-2 その他関連する計画との関係性
5. 基本方針 (1)基本原則 (2)エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点		4．戦略の対象 4-1 戦略の対象となる地域 4-2 戦略の対象となる活動 4-3 戦略の策定主体と対象となる関係者
6. 戦略の対象 (1)戦略の対象となる地域 (2)戦略の対象となる活動		5. 知床の観光・エコツーリズムをめぐる現状と課題 5-1 観光・エコツーリズムの現状と推移 5-2 現在生じている課題 5-3 今後予想される中長期的な問題
7. 守るべき知床の価値 (1)自然に関する価値 (2)人と自然の関わりについての価値 (3)非日常性から得られる価値	→	6．守り伝えるべき知床の価値と将来目標 6-1 守り伝えるべき知床の価値 6-2 目指すべき知床半島の利用のビジョン 6-3 知床らしいエコツーリズム推進の視点 6-4 具体的な目標項目と KGI
8. 将来目標 (1)遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上 (2)世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供 (3)持続可能な地域社会と経済の構築	→	
9. 具体的方策 (1)利用コントロール (2)守るべきルールの設定と指導 (3)情報の発信 (4)ガイドの育成とガイド利用の推奨 (5)文化的資産等の活用 (6)利益の還元 (7)施設整備 (8)モニタリング	→	7. 将来目標を達成するために必要な取組み 7-1 訪問者のマネジメントとルールの設定・運用、これらと一体的な施設整備 7-2 地域資源の活用と遺産価値を伝えるストーリーに基づいた高品質な観光プログラムの開発 7-3 ガイドの育成・研鑽とガイド利用の推奨 7-4 滞在型観光の推進・外国人観光客の戦略的な受け入れ 7-5 包括的な情報発信とブランディング 7-6 多様な主体の分担と担い手の育成・受け入れ体制の強化
	→	8. エコツーリズムを含む観光利用の推進に必要な視点 8-1 地域主体・自律的・持続的であること 8-2 協働・連携・ネットーワーク 8-3 モニタリングに基づく順応的管理 8-4 リスクマネジメントの共通理解と実践 8-5 自然環境の保全と景観への配慮 8-6 地域の文化・歴史的背景を踏まえること 8-7 知床のブランド価値を高めるという視点 8-8 地域経済への貢献と利益の還元
10. 戦略の実行体制 (1)エコツーリズムを含む観光利用に関する政策決定手順 (2)検討会議の構成と運営	→	9．戦略の実行体制 9-1 検討会議と提案制度を活用した運用 9-2 戦術（アクションプラン）への展開方針 9-3 見直しの手法、期間
11. 見直しの手法、期間		
		追補・付属資料・関連データ